

セントルシア概況

Saint Lucia



2021年8月

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

目 次

I 概観	3
1. 一般情報	3
2. 略史	4
a. 独立以前	4
b. 独立以降	5
II 政治と外交	6
1. 概観	6
2. 最近の政情	6
3. 行政	7
4. 立法	7
5. 政党	8
6. 司法	8
7. 防衛・安全保障	8
8. 外交	8
III 経済	9
1. 概況	9
2. 近年の経済状況	9
3. 産業	10
a. 観光業	10
b. 農業	10
c. 製造業	10
4. 金融・財政	11
5. 貿易	11
6. 対日貿易	12
7. 経済統合	12
IV 日本との関係	14
1. 政治・外交	14
2. 開発協力	14
3. 要人往来	15
4. 文化・人的交流	16
5. 在留邦人	16
V 旅行者のために	17
1. 通貨・両替	17
2. 電話	17

3. 電圧	17
4. 観光情報	17
5. 交通手段	17
6. 治安	17
VI 主要連絡先	18
参考資料1 閣僚名簿	19
参考資料2 祝祭日	22

(注) この資料に掲載された情報は2021年8月の時点で調査したものです。

I 概観

1 一般情報

	セントルシア	日本
面積	総面積：約 610 km ²	約 377,975.61 万km ²
位置	北緯 13 度 14 分～14 度 00 分 西経 61 度	北緯 20～ 46 度 東経 123～154 度
時差	日本との時差は－13 時間	
気候	熱帯性 乾期：12～5 月、雨期：6～11 月 ハリケーンシーズン：6～10 月 年平均気温：28.9 度（2017 年） 年間降水量：1460.6 ミリ（2017 年）	（東京）（2020 年） ¹ 8 月：29.1 度、1 月：7.1 度 年間降水量：1590.0 ミリ
人種・人口	166,637 人（2021 年） 人口増加率：0.49%（2019 年） 人種構成： アフリカ系 85.3% アフリカ系と欧米系の混合人種 10.9% インド系 2.2% その他 1.7%	1 億 2536 万人 （2021 年 5 月） ³
国旗	青色の旗地の中央に底辺を等しくした大（白）、中（黒）、小（金）の 3 つの三角形を重ね合わせています。旗地の青は空と海と忠誠を、金は太陽と繁栄を、白と黒はヨーロッパ系とアフリカ系の文化をそれぞれ表し、3 つの三角形はセントルシアの景勝地、3 つの峰(three pitons)を示しています。	
主要都市	首都：カストリーズ	
社会	17 世紀から 18 世紀半ば頃まで約 150 年にわたりこの国を支配したフランスの影響が大きく残っており、旧イギリス領植民地の中では特異な存在となっている。言語も公用語が英語であるにもかかわらず、フランス語が崩れたパトワ (patois) が今日でも広く使われている。	
宗教	キリスト教徒 90.4%。特にフランスの影響を反映して、ローマ・カトリック教徒が 61.5% を占めている。	

¹ 気象庁：

http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s1.php?prec_no=44&block_no=47662&year=2019&month=&day=&view=a1

³ 総務省統計局：<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/>

文化・習慣	フランス文化の影響が色濃く残っており、ラジオニュースも英語とパトワの2か国語で放送されている。
教育	英国に倣った教育制度、5歳からの10年間の義務教育

2. 略史

セントルシア史	
西暦	出来事
1600 頃	フランスの入植開始
1624	英国の初入植活動失敗
1640	カリブ族、イギリス勢力を一掃
1651	フランスの入植
1654	カリブ族、植民大臣 De La Riviere を殺害
1664	トーマス・ワーナーによる侵攻
	14度にわたる領有権の奪い合い
1814	パリ条約イギリスの支配権確立
1967	英国の自治領となる
1979	2月22日独立 総選挙: セントルシア労働党(SLP) ルイージ政権
1982	総選挙: 統一労働者党(UWP) コンプトン政権
1987	第2次UWPコンプトン政権
1992	第3次UWPコンプトン政権
1997	総選挙: SLPアンソニー政権
2001	総選挙: 第2次SLPアンソニー政権
2006	総選挙: UWPコンプトン政権
2007	UWPキング政権
2011	総選挙: SLPアンソニー政権
2016	総選挙: UWPシャスネ政権
2021	総選挙: SLPピエール政権

a. 独立以前

セントルシアは、1502年にコロンブスにより「発見」されたというのが通説になっています（現在でもコロンブスがこの島に上陸したとされる12月3日には彼の来島を祝う催しが行われています。）が、諸説があり統一した見解はありません。ヨーロッパ人による入植は1600年前後にフランス人により始められたようです。その後、英国人による若干

の入植も試みられましたが、1750年代に本格的に英国が関心を示すようになるまで、約150年にわたり主にフランスの支配下にありました。1814年、パリ条約により英国の支配権が確立するまでの間、英仏間で争いが続き、領有権も14度にわたり変わりました。砂糖栽培の導入は、セントルシアの社会構造に大きな影響を与え、多くの労働力を必要とするサトウキビ栽培導入により生じた労働力不足はアフリカからの多数の奴隷輸入により補充しました。1958年から1962年までは、他の英領カリブ諸島とともに英領西インド諸島連邦に編入されましたが、同連邦崩壊後、1967年3月に英国の自治領となり、1979年2月22日に独立を果たしました。

b. 独立以降

独立以前から13年間政権党であったセントルシア労働党(SLP)の後、1964年コンプトン首相率いる統一労働者党(UWP)が政権の座に就き、1979年まで政権を維持しました。独立直後の1979年7月に行われた総選挙ではSLPが勝利し、党首のアラン・ルイージが首相に就任しましたが、党内抗争から指導者が三度変更し、1982年SLP政権は崩壊しました。同年5月の総選挙の結果、UWPが政権に返り咲き、コンプトン首相が就任しました。コンプトン政権は1987年と92年の総選挙にも勝利し政権を維持しましたが、バナナ農民の抗議運動の盛り上がりを前に、コンプトン首相はルイス首相に首相職を譲り引退しました。1997年5月の総選挙ではSLPが地滑りの勝利を収め、アンソニー首相が就任しました。01年12月に実施された総選挙でもアンソニー首相率いるSLPが17議席中14議席を獲得し、再選されました。

アンソニー政権は観光業を中心とした経済開発を好調に進めていましたが、農業の発展に力を入れていなかったことに国民が反発し、06年に行われた総選挙では05年に政界復帰したコンプトン元首相率いるUWPが17議席中11議席を獲得し、勝利しました。

II 政治と外交

独立年月日	1979年2月22日	
政体	英国女王エリザベス2世を元首とする立憲君主国 王権の代行は総督 総督：イマニュエル・ネヴィル・スナック	
立法府	上院	下院
議席数	11議席	17(18)議席
任期	5年	
政党議席数	セントルシア労働党 (SLP) 6	セントルシア労働党 (SLP) 13
	統一労働者党 (UWP) 3	統一労働者党 (UWP) 2
	無所属 2	無所属 2
	上院は首相から6名、野党代表から3名、各界代表者の協議により2名が推薦され、総督により任命	普通選挙により17選挙区から各1名選出 下院議長、検事総長が議会外から選出された場合、下院議員となる
	主要政党 セントルシア労働党 (SLP): 党首 フィリップ・ピエール(首相) 統一労働者党 (UWP): 党首 アレン・マイケル・シャスネ(野党党首)	
行政府	議院内閣制 下院優位制	
司法制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治安判事裁判所 (Magistrate's Court) ・ 高等裁判所 (High Court) ・ 控訴裁判所 (Court of Appeal) ・ 英国枢密院 (Privy Council) 	
防衛	警察 (特別部隊と沿岸部隊も含む)	

1. 概観

英国女王を元首とする立憲君主国家です。政治制度は英国式のウェストミンスター議会民主制が取り入れられており、小選挙区制、議院内閣制、二大政党制などの特徴を有します。総督は首相の助言により任命されます。

2. 最近の政情

2007年9月、コンプトン首相は逝去し、同首相の療養中、首相代行を務めたキング前保健相が新首相に就任しました。08年5月には、ブースケイ前外相等2名の与党下院議員がドベイン経済問題・経済開発・投資・国家開発相の過大な権力に対する不満からキング首相不支持を表明し、無所属議員となったため、与野党議席数が拮抗し、一時危機的状況に陥りましたが、ドベイン

大臣が辞任し、ブースケイ前首相が閣僚復帰するなどの内閣再編が行われ、事態は終息しました。

11年11月28日の総選挙の結果、SLPが下院議席17議席中11議席を獲得し、UWPに勝利、5年ぶりの政権交替が実現しました。UWPが敗北した背景には、閣僚のスキャンダル、台湾からの資金の使途を巡る問題、2議員の離党、キング元首相の指導力不足等が指摘されました。アンソニー新首相率いるSLP政権も、経済の低迷、失業率及び治安の悪化を止めることはできませんでした。経済は、観光業を中心に回復傾向にあったものの、13年末の集中豪雨等の自然災害もあり、国民生活が改善する程の回復には至りませんでした。

16年6月6日の総選挙では、UWPが17議席中11議席を獲得、政権を奪取し、下院議員に初当選したシャスネ党首が首相に任命されました。シャスネ政権は、前政権時代に達成が困難であった失業対策、経済再建及び投資誘致を図るとともに、治安の改善及び医療サービス、高等教育へのアクセス改善を課題としていました。シャスネ首相は経済人としての経験を活かし、観光業への投資に注力していましたが、コロナ禍の影響から国民が経済政策の恩恵を受けることはなく、結果的に、シャスネ政権下で公的債務は40億ドルにも膨れあがってしまいました。

21年7月26日に行われた総選挙では、野党SLPが13議席、与党UWPは2議席、無所属2議席と、野党が地滑りの勝利を収め、ピエール新政権が誕生しました。今回の総選挙は、コロナ禍での長引く経済困難によって政府への不満が高まっている中で行われ、シャスネ首相は5年の実績を強調しましたが、有権者の賛同は得られませんでした。また、与党UWPの汚職、選挙直前のキング・インフラ大臣の辞任、離党は大きな打撃となりました。7月28日にピエール首相は就任宣誓を行い、8月5日にはキング前大臣等無所属議員2人を含めた内閣を発足させました。外務大臣には、バプティスト大臣が就任しました。

20年初の新型コロナウイルスの発生以降、セントルシアは、入国制限、国内の夜間外出禁止等の規制措置を実施し、緊急事態宣言(以後現時点まで延長)も発出され、国境も閉鎖されました。20年6月には国境が再開され、暫くは感染も抑えられていました。21年1月に入り、感染者は増加に転じ、国内各種規制の強化が実施されました。3月からは、インドからの寄贈及びCOVAXからの購入ワクチンでワクチン接種が開始されました。新規感染もやや減少傾向に転じました。

3. 行政

議院内閣制で、下院の多数党の党首が総督により首相に任命されます。首相は上下両院議員の中から閣僚を指名し、これを総督が任命します。(参考資料1「セントルシア内閣閣僚一覧」参照)

4. 立法

議会は上院(11議席)および下院(17議席)からなる二院制で、下院に実権が集中する下院優位制となっています。下院議員は17の選挙区から各1名が普通選挙により選出されます。下

院議長、検事総長が議会外から選出された場合、下院議員となり、下院議員数は増加します。上院議員は任命制であり、6名が首相により、3名が野党代表により、2名が宗教・経済・社会団体の協議により推薦され、全て総督に任命されます。

5. 政党

中道右派のUWPと中道左派のSLPとからなる二大政党制です。

6. 司法

東カリブ裁判制度の下にあるセントルシアの司法制度は、(ア)簡易裁判所である治安判事裁判所(Magistrate's Court)、(イ)高等裁判所(High Court)、(ウ)控訴裁判所(Court of Appeal)、(エ)英国枢密院(Privy Council)の4層構造となっています。治安判事裁判所はセントルシア国内を管轄していますが、高等裁判所と控訴裁判所は東カリブ全体を管轄しており、高等裁判所については、その法廷が開かれる国の判事1名をもって、控訴裁判所については判事3名をもってこれを構成します。最終審である英国枢密院司法委員会の出した見解は法的には意見にすぎませんが、セントルシアでは憲法上の慣例によりこれに拘束力を与えています。

なお、英国枢密院の死刑廃止ガイドラインを不服とする英連邦カリブ諸国は、トリニダード・トバゴにカリブ司法裁判所(Caribbean Court of Justice: C C J)設置を支持し、05年4月にC C Jが英国枢密院に代わる最上級裁判所およびカリコム単一市場経済の紛争処理機関として開設されました。ただし、セントルシアの最高裁判所としてC C Jが機能するためには憲法改正の手続きが必要であり、今なお英国枢密院が機能しています。

7. 防衛・安全保障

警察(特別部隊と沿岸部隊も含む)を有し、独自の軍隊は保有していません。東カリブ諸国の地域安全保障システム(RSS)に加盟しています。中南米産麻薬の欧米輸出経路地となっており、麻薬問題が治安・安全保障上の最大の脅威となっています。

8. 外交

主に英語圏カリブ諸国で構成するカリコムおよび東カリブ諸国で構成される東カリブ諸国機構(OECS)の一員として、小国間の結束力の強化を図っています。首都カストリーズにはOECSの本部が設置されています。WTO、FTAAといった国際的なグローバル化の動きの中にあって、小規模経済国の利益をいかに守っていくかが最大の外交課題となっています。これに加えて、バルバドス、米国、英国を中心とする欧米諸国との関係を強化しています。台湾承認国でしたが、97年9月、SLP政権の下で中国との外交関係を樹立しました。しかしながら、総選挙でUWPが勝利した後の07年4月、再び台湾との国交を回復し、中国と断交しました。19年には、7月に蔡英文総督のカリブ諸国訪問、10月にシャスネ首相の台湾訪問が実施されました。

Ⅲ 経済

1. 概況

セントルシアの経済の中心は農業でしたが、1990年代から主産業であったバナナ生産が縮小し始め、近年は多くのカリブ海諸国と同様に観光産業が中心です。経済規模は小さく、それを補完するためにカリコム及び東カリブ諸国機構(OECS)の両方に加盟し、小島嶼国間の結束力の強化を図っています。OECSの本部はセントルシアのカストリーズに置かれています。

グローバル化が進む中で、地域特有のハリケーン等の自然災害に対応しつつ、小規模経済国の利益をいかに確保するかが重要な課題となっています。主産業である観光関連業は、欧米からの観光客の増減や自然災害等に影響され、また化石燃料をほぼ輸入に依存していることから、経済は外的要因に左右される脆弱な構造になっています。

20年以降のコロナ禍は、クルーズ船寄港等を含めたセントルシアの観光に大きな打撃を与えており、回復までには時間を要すると見られています。

2. 近年の経済状況

12年の不況、13年のゼロ成長と苦難の時期を乗り越え、15年のジカウイルス感染症拡大による観光業の落ち込みはあったものの、その後19年までプラス成長を達成しました。

18年は、インフラ投資、好調な観光関連及び建設業の活性化による外国投資の増大、世界経済回復による観光客の流入によってGDP総額は20億米ドルを超えましたが、20年のコロナ禍により、経済成長は前年比▲18.9%と大きく落ち込み、GDP総額も20億米ドルを大きく割り込む結果となりました。

14年には24.4%であった失業率は、16年には21.3%、17年には20.2%と緩やかに低下していますが、特に若年層の失業率の高さは38.6%とIMFも指摘しており、深刻な社会問題になっています。

政府は、観光誘致及び新規外資ホテルの開拓を含む観光業の強化、投資による市民権プログラム(CIP)を通じた歳入拡大、公共部門の効率性改善を目標に、経済成長及び財政の持続可能性回復に努めています。

表1 GDP総額(単位:億米ドル)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
GDP総額	18.08	18.65	19.99	20.66	21.22	16.92

(出所:IMF World Economic Outlook April 2021)

表2 GDP成長率(単位:%)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
---	------	------	------	------	------	------

成長率	▲0.2	3.8	3.5	2.6	1.7	▲18.9
-----	------	-----	-----	-----	-----	-------

(出所:IMF World Economic Outlook April 2021)

表3 インフレ率（消費者物価指数：年間平均）（単位：％）

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
インフレ率	▲0.98	▲3.08	0.11	2.39	0.54	▲1.75

(出所:IMF World Economic Outlook April 2021)

3. 産業

a. 観光業

かつては大型クルーズ船による観光が中心でしたが、近年食事等全て込みのオールインクルーシブ型のホテルが欧米からの観光客を集めています。また、セントルシア観光局は、ここ数年ブラジルなどの中南米諸国の市場にも注目しています。

08年末の世界的な金融危機の影響を受け、観光客数や観光施設等への外資投資が激減したものの、以後順調な回復をみせました。一時、ジカウイルス感染症の影響によって再度大幅に落ち込みましたが、17年には劇的に回復しました。米国からの観光客は全体の約半数を占め最も重要な市場である一方、欧州からの観光客数も順調にのびています。14年には観光客数は100万人を超え、19年には128万人にまで伸び、また同期間中、観光客による総消費額は19.75億東カリブドルから26.96億東カリブドルと大きな伸びを記録しました。

20年のコロナ禍により人の移動が大きく制限されたことから、観光客数は前年比65%減の45万人、観光客による総消費額は前年比68%減の8.58億東カリブドルと大幅に落ち込みました。

b. 農業

セントルシアの農業はバナナ生産が主体ですが、1980年代中頃より多角化政策が開始され、ココナツ、カカオ、マンゴー、アボカド、調理用バナナのような非伝統作物生産や畜産業も顕著に増大している他、唐辛子、ブレッドフルーツ等観光産業向けの国産農産物供給体制の促進が進められています。バナナは、ロメ協定の恩恵を受け英国を中心に輸出されてきましたが、05年にWTOの決定によりカリブ産バナナへの優遇制度が撤廃され、09年にはEU市場における特惠待遇も受けられなくなりました。13年、政府は、EUとの間でバナナ協定を締結し、産業再編に努めています。度重なるハリケーンや天候不良の影響や黒シガトカ病の被害を受け、バナナ産業から離れる農民が相次ぎ、93年には12万トンを出していたのが、18年には9千トン弱まで減少しています。

c. 製造業

製造業の主要産品は、石鹼、ココナツオイル、清涼飲料水、衣類、家具で、国内消費もしくは近隣カリブ諸国向けに生産されています。このほか輸出用に機械部品、スポーツ用品、プラスティ

ック製品、玩具、アクセサリ類、工芸品、食品等も製造されています。1978年以来、政府の投資奨励策に呼応して、米国、欧州、カナダ及びアジアの企業が進出し、1990年代初期には顕著な成長を遂げましたが、近年下降傾向にあります。

4. 金融・財政

東カリブ諸国機構（OECS）内では、通貨統合が実現しており、通貨は東カリブ中央銀行が発行する東カリブドルを使用しています。（為替相場は1米ドル＝2.7東カリブドルで固定。）

セントルシアは12年に付加価値税（VAT）15%を導入しましたが、これにより全ての東カリブ諸国がVATを導入したことになりました。IMFによれば、公的債務は、財政赤字及び利子率上昇によって継続的に上昇傾向にあり、対GDP比はここ数年60%前後で推移していましたが、20年以降のコロナ禍による政府支出の増加により、84%まで上昇したと予測されています。

セントルシアでは他カリブ諸国に倣い投資による市民権プログラム（CIPi）を16年に導入し、18年には政府歳入の6%、19年には2%を占めています。

カリブ諸国ではオフショア取引が盛んですが、近年世界的な傾向として、欧米大手銀行が、コルレス銀行関係（Correspondent Banking Relationships）（注：国際決済のための為替業務代行契約を結んだ取引銀行先との関係）の解消や契約に一部制約を設ける動きにあり、カリブ地域は世界で最もこの動きによる影響を受けている地域（世銀報告書15年11月）とされています。

表4 公的債務割合（単位：%）

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
債務割合	60.57	60.29	59.87	59.98	61.32	84.41

(*推定値 出所:IMF World Economic Outlook Database Apr 2021)

5. 貿易

貿易収支は、輸出総額に対して輸入総額が大幅に上回っています。主な輸出品は、清涼飲料水、アルコール飲料、バナナ等で、主な輸入品は燃料、車両、食品等です。主な貿易相手は米国、トリニダード・トバゴ、中南米諸国等です。

表5. 貿易額（東カリブ億ドル）

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
輸出	4.87	3.23	3.43	1.68	2.22	1.73
輸入	15.40	17.68	17.69	17.79	16.15	14.07

（出所：東カリブ中央銀行）

表6 主要貿易相手国（地域）別貿易実績（2017年）

	輸出		輸入	
	国名	構成比（%）	国名	構成比（%）
1	米国	32.2	米国	43.8
2	EU	16	トリニダード・トバゴ	15
3	トリニダード・トバゴ	7.9	EU	12.1
4	日本	5.2	バルバドス	2.8
5	バルバドス	4.6	台湾	2.2

（出所：WTO Trade Profile）

6. 対日貿易

対日貿易での貿易収支は恒常的に日本側の大幅な黒字です。日本からは自動車やその部品が主に輸入されています。

表7 対日貿易（2020年）（単位：千円）

対日輸入総額	806,549	対日輸出総額	658
主な輸入品	自動車	主な輸出品	アルコール飲料
	745,635		658
	自動車部品		
	15,531		
原動機	7,859		

（出所：財務省貿易統計、国別総額表及び国別概況品別表）

7. 経済統合

東カリブ諸国機構（OECS）に加盟し、域内の往来自由化、さらなる経済統合を目指しています。OECSは既に通貨統合を達成しており、各国間の経済格差も小さいことから、カリコムに比べOECS統合の実現性は高いといわれています。

カリコムに加盟し、カリコム単一市場・経済（CSME）を推進しており、バハマ、ハイチ及び英領モンセラットを除くカリコム加盟国間（12か国）では単一市場（CSM）が06年に開始されました。域内からの輸入は、原産地証明書が発行された場合はゼロ関税です。単一経済（CSE）については早期の開始を目指していますが、実現は難しいとされています。

貿易協定は、カリコムとして、対ベネズエラ貿易投資協定、対コロンビア貿易経済技術協力協定、対ドミニカ共和国自由貿易協定、対キューバ貿易経済協力協定、対コスタリカ自由貿易協定に署名しています。

カリブ諸国連合（ACS）にも加盟しており、カリコム及びACSを通じて、南米南部共同市場

(MERCOSUR)、中米統合機構(SICA)等の中南米経済との幅広い連携も進めています。

また、1951年に発足した米州機構(OAS)にも加盟していますが、11年には中南米カリブ諸国共同体(CELAC)が発足し、OASから米国及びカナダを除いた全ての中南米諸国(33か国)が加盟し、域内での政治、経済、社会、文化の側面の統合を長期目標に掲げています。

IV 日本との関係

1. 政治・外交

1979年2月にセントルシアが独立した後、日本は同年3月9日、セントルシアを承認し、1980年1月11日に外交関係を樹立しました。1981年から在トリニダード・トバゴ大使館がセントルシアを兼轄しています。セントルシアは駐日大使館を設置していませんが、台湾に駐節する大使が日本を兼轄しています。

セントルシアは1981年に国際捕鯨委員会（IWC）に加盟しました。当初は反捕鯨国でしたが、現在は海洋生物資源の持続可能な利用の立場を支持しています。

2. 開発協力（研修員及び専門家については、2020年度までの実績）

日本のセントルシアに対する開発協力は、脆弱性の克服を基本方針として、防災・環境、水産を中心に行われています。1987年度以降、10件（計67.40億円）の水産無償資金協力を実施したほか、1999年度からは草の根・人間の安全保障無償資金協力を24件実施しました。2017年度からは、ハリケーン及び洪水等の自然災害に対応するためのカルデサック流域橋梁架け替え計画を実施しています。また、2020年度には、新型コロナウイルスやデング熱等の感染症対策及び同国の医療・保健体制強化のための経済社会開発計画（2億円）を決定しました。

技術協力では、258人の研修員を我が国に受け入れており、1991年度以降、水産分野の専門家を中心に32人を派遣しました。1994年8月に青年海外協力隊派遣取極が締結され、1995年度以降、これまで教育分野等246人のJOCV（青年海外協力隊）を派遣しました。また2002年度以降、建築分野等16人のシニアボランティアも派遣しました。さらに、2009年度からはカリコム諸国を対象とした開発調査事業のカリブ地域漁業・水産業開発・管理マスタープラン開発調査（3年間）、13年度から18年度はOECISの6か国を対象としたカリブ地域漁民と行政の共同による漁業管理プロジェクト（5年間）を実施し、2020年度からはその後継として、カリブ地域漁民と行政の共同による沿岸水産資源の保安全管理強化プロジェクトが開始されています。10年度には、ハリケーン・トーマスによる被害に対する緊急援助物資の供与を行いました。

なお、セントルシアには国際協力機構（JICA）の事務所が置かれています。

（参考：水産無償資金協力）

1987年度	漁業開発計画（1/2）	（2.90億円）
1988年度	漁業開発計画（2/2）	（3.60億円）
1992年度	デナリー漁業基地建設計画	（7.38億円）
1994年度	第三次漁業開発計画	（3.88億円）
1995年度	漁業開発センター建設計画	（5.27億円）
1997年度	ビューフォート水産複合施設整備計画（1/2）	（10.15億円）

1998年度	ビューフォート水産複合施設整備計画(2/2)	(10.08億円)
2001年度	沿岸漁業振興計画	(13.18億円)
2008年度	アンス・ラ・レイ水産施設整備計画	(5.36億円)
2014年度	水産関連機材整備計画	(5.60億円)

(参考：経済社会開発計画)

2015年度	経済社会開発計画(防災機材)	(2.00億円)
2018年度	経済社会開発計画(水産機材)	(2.00億円)
2020年度	経済社会開発計画(医療機材)	(2.00億円)

3. 要人往来

(往訪)

1992年9月	東力衆議院議員
1994年1月	山下徳夫衆議院議員
2010年5月	武正公一外務副大臣
2013年5月	鈴木俊一外務副大臣(東カリブ漁業大臣会合出席)
2015年1月	宇都外務大臣政務官
2016年5月	中山外務副大臣(カリコム外交・共同体関係理事会(COFCOR)出席)
2017年7月	藺浦外務副大臣
2019年1月	小野寺五典衆議院議員

(来訪)

1986年5月	コンプトン首相
1990年8月	マレット副首相兼貿易・産業・観光大臣
11月	コンプトン首相(即位の礼)
1998年6月	アンソニー首相
2000年6月	オドラム外務・貿易大臣(小淵総理政府葬)
2000年11月	オドラム外務・貿易大臣(日・カリブ閣僚レベル会議)
2001年1月	エリアス農業大臣
2001年2月	オドラム外務大臣
2004年3月	ハント外相兼貿易・航空相(国連総会議長として訪日)
2004年6月	ジャン農業大臣(水産庁主催シンポジウム出席)
2007年2月	ジョセフ農業大臣(IWC正常化会合)
2009年8月	エイミー国連常駐大使
2010年9月	ブースケイ外務大臣(第2回日・カリコム外相会議)
2014年11月	バプティスト外務・国際貿易・民間航空大臣(第4回日・カリコム外相会議)

- 2016年10月 エステファン公平・社会主義・エンパワーメント・青少年育成・スポーツ・文化・地方自治省付大臣（スポーツ・文化・ワールドフォーラム）
- 2019年7月 ジョセフ農業大臣（持続可能な利用会合出席等のため訪日）
- 2019年10月 ローラン特使（台湾駐在大使。即位の礼出席）
- 2019年11月 ジョセフ農業大臣及びフェリックス商業・産業大臣（ショゼール漁港改修調査招聘（JICA）のため訪日）

4. 文化・人的交流

1990年度に国立文化センターに対する音響・照明機材及び楽器（2,600万円）、96年度に教育・文化・労働・情報及び放送省に対する音響・照明機材（3,800万円）の2件の文化無償協力を実施しています。また、97年度に中央図書館に対する国際交流基金事業の図書寄贈を実施しています。

主な文化交流実績は次のとおり。

- 1995年2月 景山誠治、向山かおるバイオリン演奏会
- 1996年10月 スポーツ専門家（空手チーム）によるデモンストレーション・講習会
- 1999年11月 高野喜長グループ邦楽演奏会
- 2000年8月 江戸風・独楽ワークショップ
- 2005年6月 和食デモンストレーション
- 2020年2月 天皇誕生日祝賀レセプション開催（日本食提供を含む）、日本映画祭

人的交流としては、JETプログラムで03年度から14年度にかけて計3人の青年が訪日しています。その他、02年度外交官日本語研修で1人、06年度文部科学省国費外国人留学生（研究留学生）で1人、13年度以降、若手外交官招へいで計6人が訪日しています。20年度の若手外交官招へいには1名がオンラインで参加しています。

2020年東京オリンピック（21年に延期）のセントルシアのホストタウンは、東京都豊島区です。

5. 在留邦人

21年8月現在の在留邦人数は10人です。

V 旅行者のために

1. 通貨・両替	<p>単位：東カリブドル</p> <p>1米ドル＝2.7東カリブドルで固定</p> <p>紙幣：5、10、20、50、100ドル</p> <p>硬貨：1、2、5、10、25セント¢</p> <p>東カリブドルへは、銀行やホテルで両替可</p> <p>米ドルもほとんどの場所で使用可</p>
2. 電話	<p>セントルシアの国番号：1-758</p> <p>セントルシアにかける場合 1-758+相手先電話番号（7桁）</p> <p>セントルシアからかける場合 国際電話：011（*）+国番号（日本の場合 81）+最初のゼロを除いた電話番号 *国番号が1の地域〔北米・カリブ等〕は「011」不要</p>
3. 電圧	<p>電圧：230 ボルト、周波数：50 ヘルツ</p> <p>プラグの形状：G タイプが主流</p>
4. 観光情報	<p>◆ 観光局（St. Lucia Tourist Board）</p> <p>☎ Sureline Buidling、 Vide Boutielle、 Castries 00124</p> <p>☎ (1-758) 458-7101</p> <p>◆ ホテル・観光協会（Saint Lucia Hotel & Tourism Association）</p> <p>☎ #2 Alfiona Plaza、 Rodney heights、 Gros Islet</p> <p>☎ (1-758) 453-1811</p>
5. 交通手段	<p>タクシーは政府指定の国内均一料金となっている。タクシーを利用する前に、目的地までの料金、料金単位が米ドルか東カリブドルかを運転手に要確認。運転手へのチップは特に必要ではない。</p>
6. 治安	<p>人口比の犯罪件数は多く、首都を含め銃器使用犯罪が増加しており、巻き込まれて負傷する危険性があり、注意が必要です。</p> <p>観光立国であり、外国人が犯罪に巻き込まれないために観光地やビーチに多くの警察官を配置し、犯罪抑止活動を積極的に行っていますが、各人の一般的な防犯対策は怠ることなく、夜間の外出を控え、観光地以外は立ち入らない等し、強盗、窃盗、暴行等の事件に巻き込まれないように防犯対策が必要です。</p>

VI 主要連絡先

警察	☎ 999 / 452-2854 /456-3712
救急車	☎ 911
消防署	☎ 911
国際空港 Hewanorra 国際空港 George Charles 国際空港	☎ 454-6355/457-6100 ☎ 452-1156
航空会社 ・カリビアン航空 ・LIAT ・アメリカン航空 ・英国航空 ・Virgin Atlantic	☎ (1-800) 744-2225 ☎ (1-888) 844-5428 ☎ (1-800) 744-0006 ☎ (1-800) 247-9297 ☎ (1-800) 744-7477
在トリニダード・トバゴ日本国大使館 (セントルシアを管轄)	5 Hayes Street, St. Clair, Port of Spain, Trinidad and Tobago, W.I. ☎ (1-868) 628-5991

(電話番号はセントルシアからかける場合の番号)

セントルシア閣僚名簿

(2021年8月5日組閣)

2021年8月現在

1 閣僚

(1)	首相兼財務・経済開発・青少年経済大臣 Prime Minister and Minister for Finance, Economic Development and the Youth Economy	フィリップ・ <u>ピエール</u> Hon. Philip J. PIERRE	下院議員
(2)	観光・投資・創造産業・文化・情報大臣 Minister for Tourism, Investment, Creative Industries, Culture and Information	アーネスト・ <u>ヒレイヤー</u> Hon. Dr Ernest HILAIRE	下院議員
(3)	保健・健康・高齢者問題大臣 Minister for Health, Wellness and Elderly Affairs	モーゼス・ジュニア・ <u>バプティスト</u> Hon. Moses Jn. BAPTISTE	下院議員
(4)	教育・持続可能な開発・革新・科学・技術・職業訓練大臣 Minister for Education, Sustainable Development, Innovation, Science, Technology and Vocational Training	ショーン・ <u>エドワード</u> Hon. Shawn A. EDWARD	下院議員
(5)	外務・国際貿易・民間航空・海外移住者大臣 Minister for External Affairs, International Trade, Civil Aviation and Diaspora Affairs	アルバ・ロマヌス・ <u>バプティスト</u> Hon. Alva Romanus BAPTISTE	下院議員
(6)	上級大臣兼インフラ・港湾・交通・国土開発・都市再開発大臣 Senior Minister and Minister for Infrastructure, Ports, Transport, Physical Development and Urban Renewal	スティーブソン・ <u>キング</u> Hon. Stephenson KING	下院議員 (無所属)
(7)	商務・製造業・ビジネス開発・協同組合・消費者問題大臣 Minister for Commerce,	エマ・ <u>ヒポリット</u> Hon. Emma HIPPOLYTE	下院議員/女性

	Manufacturing, Business Development, Cooperatives and Consumer Affairs		
(8)	公平・社会正義・能力開発大臣 Minister for Equity, Social Justice and Empowerment	ホアキム・アンドレ・ヘンリー Hon. Joachim Andre HENRY	下院議員
(9)	公益事業・内務・労働・ジェンダー問題大臣 Minister for the Public Service, Home Affairs, Labour and Gender Affairs	バージニア・アルバート＝ポヨッテ Hon. Dr. Virginia Alberto-POYOTTE	下院議員/女性
(10)	青少年育成・スポーツ大臣 Minister for Youth Development and Sports	ケンソン・ジョエル・カシミール Hon. Kenson Joel CASIMIR	下院議員
(11)	農業・漁業・食料安全保障・村落開発大臣 Minister for Agriculture, Fisheries, Food Security and Rural Development	アルフレッド・プロスペー Hon. Alfred P. PROSPERE	下院議員
(12)	財務・経済開発・青少年経済省付大臣 Minister in the Ministry of Finance, Economic Development and Youth Economy	ウェイン・ギラード Hon. Wayne D. GIRARD	下院議員
(13)	首相府付大臣(住宅及び地方自治担当) Minister in the Office of the Prime Minister with responsibility for Housing and Local Government	リチャード・フレデリック Hon. Richard FREDERICK	下院議員 (無所属)

2 政務次官

(1)	教育・持続可能な開発・革新・科学・技術・職業訓練省政務次官 Parliamentary Secretary, Ministry of Education, Sustainable Development, Innovation, Science, Technology and Vocational Training	ポーリン・アントワン＝プロスペー Hon. Dr. Pauline Antoine-PROSPERE	上院議員/女性
-----	---	---	---------

(2)	<p>観光・投資・創造産業・文化・情報省政 務次官</p> <p>Parliamentary Secretary, Ministry of Tourism, Investment, Creative Industries, Culture and Information</p>	<p>グイビオン・<u>フェルディ ナンド</u></p> <p>Hon. Guibion Ferdinand</p>	<p>上院議員</p>
-----	---	---	-------------

参考資料 2 : セントルシア祝祭日 (2 0 2 1 年)

1 月 1 日	NEW YEAR' S DAY	元旦
1 月 2 日	Second New Year' s Day	元旦翌日休日
2 月 2 2 日	INDEPENDENCE DAY	カーニバルデー
4 月 2 日	GOOD FRIDAY	グッドフライデー
4 月 5 日	EASTER MONDAY	イースターマンデー
5 月 1 日	LABOUR DAY	労働者の日
5 月 2 4 日	WHIT MONDAY	ウィットマンデー
6 月 3 日	CORPUS CHIRSTI	聖体の祝日
8 月 1 日	EMANCIPATION DAY	解放の日
1 0 月 4 日	THANKS GIVING DAY	感謝祭
1 2 月 1 3 日	NATIONAL DAY	国民の日
1 2 月 2 5 日	CHRISTMAS DAY	クリスマス
1 2 月 2 6 日	Boxing Day	ボクシングデー

当館管轄国と日本の貿易関係（2020年全期）

	アンティグア・バーブーダ	ドミニカ国	グレナダ	セントクリストファー・ネービス	セントルシア	セントビンセント	トリニダード・トバゴ	ガイアナ	スリナム
対日輸入 総額	878,651 (2,040,207)	353,835 (908,788)	555,134 (913,435)	782,131 (1,027,435)	806,549 (1,453,949)	536,418 (512,562)	13,457,439 (17,500,559)	6,076,751 (6,535,155)	5,377,120 (8,852,932)
主要 輸入品目	自動車 681,925 ポンプ及び遠心 分離機 141,122 建設用・鉱山用 機械 12,430	自動車 264,553 原動機 60,253 ゴムタイヤ及び チューブ 14,110	自動車 505,288 原動機 22,763	自動車 421,054 船舶類 327,254	自動車 745,635 自動車部品 15,531 原動機 7,859	自動車 364,685 ポンプ及び遠心 分離機 101,898 自動車部品 11,965	自動車 10,400,900 原動機 712,140 管・管用継手 418,597	自動車 4,501,223 原動機 338,229 自動車部品 145,069	自動車 4,036,040 ゴム製品(タイ ヤ・チューブ) 436,977 原動機 144,964
対日 輸出総額	2,764 (3,074)	27,212 (78,754)	0 (2,080)	282 (1,591)	658 (1,522)	225,095 (229,753)	2,976,138 (6,945,745)	509,256 (905,398)	351,367 (738,893)
主要 輸出品目	記録媒体 1,615 電気計測器 876	下着類 19,327 家具 4,007 非金属鉱物製品 3,073		手道具類及び 機械用工具 282	アルコール飲料 658	まぐろ 222,870	有機化合物 2,733,465 非鉄卑金属くず 110,172 カカオ 30,229	非鉄金属鉱 455,217 生きた動物 38,443 アルコール飲料 15,283	魚介類 326,161 木材 18,369 通信機 2,030
対日 貿易収支	-875,887 (-2,037,133)	-326,623 (-830,034)	-555,134 (-911,355)	-781,849 (-1,025,844)	-805,891 (-1,452,427)	-311,323 (-282,809)	-10,481,301 (-10,556,376)	-5,567,495 (-5,629,757)	-5,025,753 (-8,219,007)

<単位>1,000円 / <出典>財務省貿易統計:国別総額表, 国別概況品別表()内2019年総額